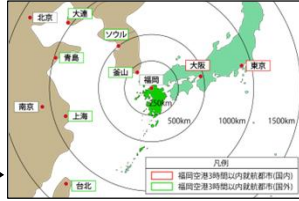


現状・課題

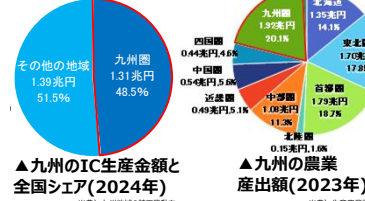
■ 基幹産業や再生可能エネルギーなどを背景に高い成長力を有するものの、人口減少や大規模災害などの課題も存在する九州圏

- アジア大陸に最も近い圏域で、アジアの主要都市とも近接。
- アジアの玄関口（ゲートウェイ）として貿易やインバウンドが拡大。
- 外国人労働者数は増加傾向。



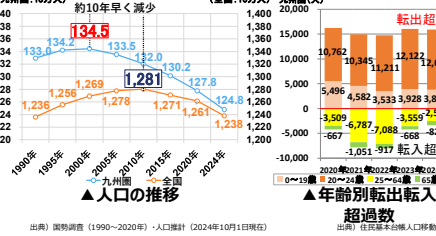
福岡を中心としたアジア主要都市との距離

- 半導体産業や自動車産業、農林畜水産業等の基幹産業が堅調に推移。
- 農業産出額のシェアは高く、我が国の食料生産拠点を形成。
- 近年はIC（集積回路）生産額の全国シェアが大きく伸び、グローバルな産業生態系を形成。



▲九州のIC生産金額と全国シェア ▲九州の農業産出額(2023年)

- 人口減少、少子高齢化が進み、担い手、後継者不足が顕在化。
- 高校生や大学生に該当する24歳以下の若い世代が他圏域に転出超過。
- 合計特殊出生率は全国平均より高い。



▲人口の推移 ▲年齢別転出転入超過数

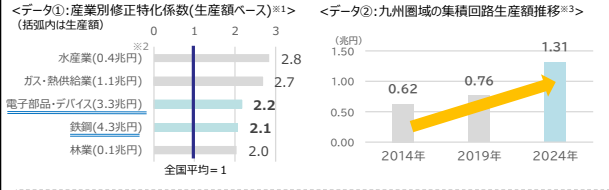
- 風水害・土砂災害・火山災害や南海トラフ巨大地震等の災害への対応や交通基盤の冗長性確保が必要。
- 世界自然遺産や温泉など豊かな自然環境を保有。



九州圏にて近年発生した災害と南海トラフ巨大地震時の津波被害甚大エリア

産業等の強みを客観的に把握

- 九州圏は、産業別修正特化係数(生産額ベース)をみると、「電子部品・デバイス」「鉄鋼」等の産業に強みを有している。
- IC（集積回路）の生産額については、過去10年、増加傾向で推移しており、圏域内で半導体産業関連の投資が進んでいる(データ②及び左図「産業」)。



※(1)環境省、(株)価値総合研究所「地域経済循環分析(2022年版Ver.9.1)」より作成。産業別修正特化係数(生産額ベース)とは、圏域内の産業別生産額構成比を全国平均と比較し、貿易を考慮した係数であり、同係数が1を超える産業は全国平均よりも強みのある産業(集積している産業)である。 ※(2)生産額と産業別修正特化係数の両面からここでは「電子部品・デバイス」産業を強み産業と評価。 ※(3)九州経済産業局「鉱工業動向等 IC生産実績」を基に作成

将来像・目標

アジアの成長センター『アイランド九州』～個性・魅力を発揮しながら、ひとつにまとまり発展し、誇れる九州～

目標1 成長エンジン「アイランド九州」～交流と変化を競争力へ～

ゲートウェイ機能を強化し、多様な人々が集い賑わう国際交流拠点を形成することで、国際競争力の向上とイノベーションによる新たな産業の創出を促し、圏域内の経済や暮らしを成長させるとともに、その効果を国内他圏域へ拡大する重要な役割を果たす。

目標2 自立型広域連携「アイランド九州」～快適で幸福な暮らしへ～

離島・半島・中山間地域等を含め、重層的な生活・経済圏を基盤としてデジタルとリアルの融合による多様なネットワークで繋がることで、地域生活圏の形成や都市の利便性と地方の快適性が共生した住みやすい働きやすい育でよいと思えることができる魅力的な生活環境を形成し、幸福度の高い自立型広域連携「アイランド九州」を目指す。

目標3 強く美しい「アイランド九州」～持続可能でしなやかな社会へ～

地震や豪雨、火山等による大規模自然災害等に対し、強靱な九州圏を構築するとともに、美しい自然を保全し、環境負荷の少ないカーボンニュートラルの実現をリードする、強く美しい「アイランド九州」を目指す。

広域連携プロジェクト

1. アジア、そして世界と日本の交流・連携・成長拠点プロジェクト

- アジア諸地域に近接した立地特性をいかし、国際連携・交流と競争力を強化。アジアの成長センターとして経済をけん引。
- ゲートウェイ機能強化のため、陸海空シームレスな国際物流ターミナルの整備による国際船舶ネットワーク整備を推進。
- 国際拠点港湾・重要港湾の機能強化や強靱な物流ネットワーク構築、特殊車両通行許可の迅速化推進 など

2. ひとつにまとまり活力を創出する交流・連携プロジェクト

- 中核中核都市と都市・地域生活圏・集落生活圏を陸海空の交通ネットワークでシームレスに連結し、九州圏全体の活力を創出。
- 高規格道路網の充実・強化とスマートIC整備等による利便性向上、中核中核都市における交通円滑化やデータを活用した効率的な渋滞対策の促進 など ▲ネットワークの高質化に向けた取組

3. 強みや特色をいかした持続可能な産業振興プロジェクト

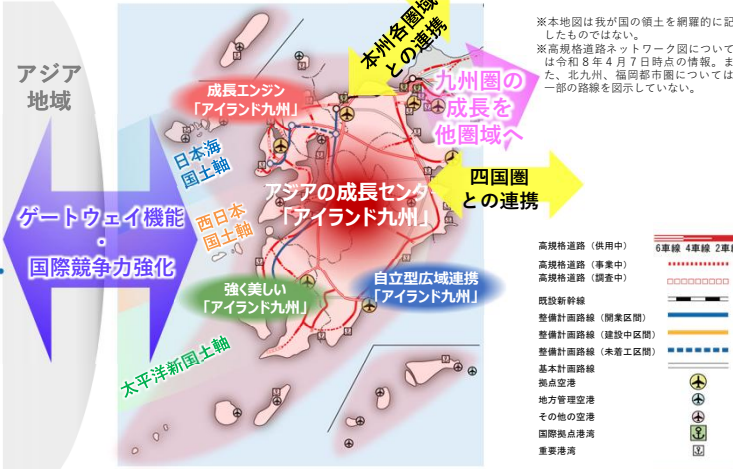
- DX・GX推進等、社会経済状況の変化に対応した各産業の基盤整備を推進。自動車・半導体等の各産業にも波及させ、経済安全保障と生産拠点の形成・強化。
- 農林畜水産業では食料安全保障の強化、輸出拡大、6次産業化等、稼げる農林畜水産業を実現し、発展を促進。
- 観光産業では、九州圏一体となった取組により「観光アイランド九州」の発展を促進。
- この他、地域の特色をいかした産業分野で、新たな産業の発展を促進。(事業例)
 - 新生シリコンアイランド九州実現に向けた人材育成・サプライチェーン強靱化、観光資源の高付加価値化や九州MaaS活用による広域周遊・長期滞在の促進、農林畜水産業の発展・輸出拡大のための官民連携、「道の駅」等の拠点機能強化の推進 など

4. 中核中核都市を核とした魅力あるまちづくり推進プロジェクト

- 中核中核都市等の広域連携拠点機能を強化し、都市コミュニティの再生により、広域レベルの都市機能から、地域コミュニティまで多世代交流拠点を活性化。
- 広域圏内の情報ネットワークを強化し、各県が自立一体となって地域活性化に取組む、自立的な経済循環システムを構築。(事業例)
 - 中心市街地活性化と地方都市再生、無電柱化・自転車環境整備の推進、「ほごみち」活用による賑わい空間創出 など

5. 離島・半島・中山間地域・都市をつなぐ地域生活圏形成プロジェクト

- デジタル活用、官民連携により、地方の豊かさと都市の利便性が融合、デジタルとリアルが融合した地域生活圏の形成推進。
- 関係人口の拡大・深化、人材育成・確保による地域活性化。
- 各地域の実態に即し、様々な取組を重層的に展開し、着実に地域生活圏の形成。(事業例)
 - 離島・半島と都市部との道路ネットワークの構築、交通ネットワークとデジタルの融合による地域公共交通の維持確保、ドローン配送、遠隔医療等推進による地域生活圏の形成 など



6. 経験をいかした防災と豊かな環境の保全・創出プロジェクト

- ハード、ソフトの両面の対策を推進し、国土基盤の高質化・強靱化。デジタルを活用した国土の適切な利用・管理を推進。
- 生態系の保全やカーボンニュートラルの推進、グリーンインフラの実装等、自然環境と共生するグリーン国土の創造を推進。(事業例)
 - 「流域総合水管理」「流域治水」、「多自然川づくり」の取組等による「生態系ネットワーク」の形成、高規格道路の未整備区間解消、インフラの耐震性向上、老朽化対策の加速 など

7. 国内他圏域との連携プロジェクト

- 国内他圏域との交流・連携の強化により、「国土の均衡ある発展」の実現。
- 質の高い交通やデジタルのネットワーク強化を通じた「全国的な回廊ネットワーク」の形成を図り、国内他圏域との連携を促進。(事業例)
 - インバウンド・国内観光客の誘致や滞在長期化に向けた取組 関連産業の活性化 など
 - 西のゴールデンルート

※本資料は、九州圏広域地方計画協議会及び九州圏広域地方計画有識者会議における議論等を踏まえ、2026年（令和8年）5月時点での検討状況を整理したものである。